

日銀事務所長の あさひかわ経済 ディスカバリー 29

今年も残りのわずかになってきました。この一年間、道北地域の経済は、比較的平穩で良好だったと言えるのではないのでしょうか。先日公表した短観でも、企業の景況感には引き続き良い状況にあることが確認されました。

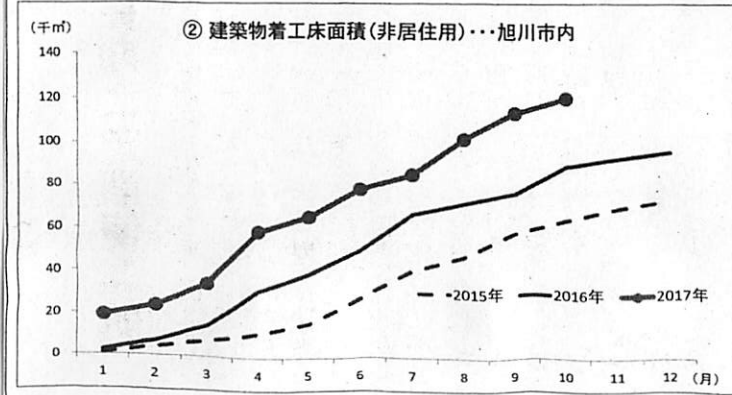
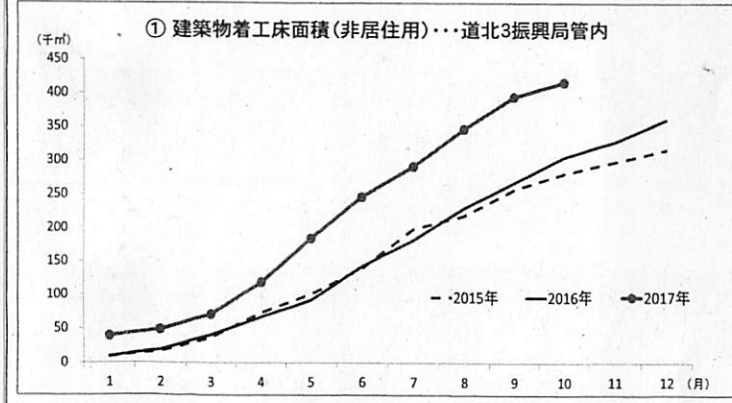
そうした中で、現在私が着目している指標が一つあります。グラフ①を見てください。これは、道北地域(上川・オホーツク・宗谷管内)で新築された非居住用建築物の

旭川の建築需要

床面積を年初からの累積で示したものです。二〇一五年から二〇一七年の三年分を計算しました。これを見ると、今年の分が図抜けて多いことがわかります。今年十月までの累計は四十一万六千平方メートルで、前年同期に比べて三六%増加しています。また、旭川市内だけをみても、十二万平方メートルで同じく三五%増加しています(グラフ②参照)。四十一万六千平方メートルの規模感はずいぶんと来ないかもしれませんが、旭川市役所の総合庁舎(一万二千二百七十六平方メートル)三十四棟分に相当します。

舗、工場の建物や倉庫、各種施設など様々です。旭川市内あるいは道北地

域において実際にどんな建物が増えているのかを、新聞・雑誌報道や建設会社の方から聞いた話などから推測すると、次の四つのカテゴリーが目立っているよう



に思われます。

第一は、大型店舗の開設です。この一年間、私が知る限りでも、旭川駅周辺の商業地区のほか、国道などの主要幹線道路沿いに、ホー

ムセンタ―やドラッグストアをはじめとする大型店舗がいくつか新たに開店しました。先日

も、大雪連日の既存大型電機店の向かいに、別の大手電機店が進出してきて

ことは、皆さんも記憶に新しいと思います。旭川は人口が減少しているとはいえ、小売業界においてはまだまだ購買力が旺盛な地域と認識されているようです。

第三は、農業系の施設です。作物を貯蔵したり農機を収容するための倉庫、牛舎などの畜舎、収穫した農産物を加工する工場の新増築が増えているようです。道北地域では、品質やブランド力の向上により

ムなど医療福祉関係施設です。もともと旭川には、病院をはじめとする医療施設やグループホームなどの高齢者向け施設が集積していま

すが、最近はこのように充実したインフラを頼りにさらに周辺地域から人口が流入しています。高齢者が多いことを前提に、こうした施設の需要と供給のバランスの循環が働いていると言え

ます。ただ、これらの施設の新築は、現在も見られてはいますが、二〜三年前に比べるとやや下火になっているようです。

第四は、学校や保育園などの公共施設です。これらは、新設は少ないのかもしれませんが、耐震補強に伴って一定の工事需要があるようです。

以上のうち、四番目の公共施設以外はすべて民間に

第二は、病院や老人ホームなど医療福祉関係施設です。もともと旭川には、病院をはじめとする医療施設やグループホームなどの高齢者向け施設が集積していま

すが、最近はこのように充実したインフラを頼りにさらに周辺地域から人口が流入しています。高齢者が多いことを前提に、こうした施設の需要と供給のバランスの循環が働いていると言え

ます。ただ、これらの施設の新築は、現在も見られてはいますが、二〜三年前に比べるとやや下火になっているようです。

以上のうち、四番目の公共施設以外はすべて民間に

【河村賢士(かわむらけんじ)】一九八〇年(昭和三十三年)東京都生まれ、一橋大学経済学部卒。支店は函館・福岡(勤務。二〇一五年(平成二十七年)六月)月国際局国際業務課長から旭川事務所長に着任。趣味は登山、スキー。

